

## 平成24年度 第2回 津山市立図書館協議会【議事概要】

日 時:平成25年2月25日 午後2時～午後3時30分

会 場:津山市立図書館 集会室

出 席:國米委員、小林委員、志水委員、頭土委員、高畑委員、 竹内委員、南都委員、  
松浦委員、 宮本委員、山本委員 (10名)

欠 席:大田委員、中畑委員、檜本委員、西口委員、光延委員 (5名)

( 委員長、 副委員長、五十音順 敬称略)

事務局:行田生涯学習部長、大倉図書館長、武下副館長、大河原副館長

### 1.開 会

過半数の委員出席による協議会の成立を事務局から告知し、開会。

### 2.事務局挨拶

行田生涯学習部長(略)

### 3.委員長挨拶

宮本委員長(略)

### 4.委員、事務局自己紹介(略)

### 5.議 事

#### (1)平成24年度主要事業実績について

##### 事務局報告

委 員:小中学校連携の研究会を立ち上げたとのことだが、小中学校図書館との電算システムのネットワーク化の状況はどうか。先進地での導入はいつ頃か。

事務局:津山市では、独自にデータベース化している学校はある。平成23年度に調査研究を行い、平成24年度は図書館ネットワーク実務担当者研修会を立ち上げた。ネットワーク化は予算措置された時点で実行したい。システムが整えば、学校の図書室のパソコンで、探す本が他の学校にあっても容易にわかり、予約もできる。司書が手作業で行っている貸出業務や統計業務も簡単にできるようになると考えている。

先進地事例として総社市の小中学校では、平成21年度に国の緊急雇用創出事業を活用し、資料へのバーコード貼付やデータ添付が順次行われた。各学校図書館は同じ電算システムを

導入し、総社市立図書館ともネットワークで繋がった。

委員：ネットワーク化を目指すならば、総社市の関係者から指導を受け、協議会委員が率先して取り掛かったらどうか。

事務局：総社市では、作業員の雇用、貼付するバーコードやラベル、データ処理等、国 100%補助事業であった。津山市において単独市費での実施は予算的に大変厳しい。

委員：久米地区で、図書館が地域住民に近い存在であってほしいと、有志で勉強会を発足させた。岡山県の学力や不登校など全国下位の数字ばかりを聞き危惧しているが、県立図書館は貸出数全国1位を誇っている。津山もその恩恵を受け、図書館が市の拠点、自立への支援の場にできたらと考えている。市の予算の都合で、地区館を突然廃止することのないように。

事務局：市立図書館では県立図書館から年間多くの本を借りて、市民に提供している。県立図書館も所蔵していない本は、購入依頼もする。利用者に希望の本ができるだけ届くようにしている。

委員：図書館がアルネ駐車場の使用料を年間 1,700 万円も支払うのは大変もったいない。

事務局：少しでも節約する方法を考えていきたい。

委員：平成24年度からボランティア活動を開始したむかし話を聞く会の今年度の開催状況は。

事務局：昔話の語りの会のボランティアが2グループ誕生した。一方は月1回の割合、他方は今年度3回、活発に活動いただいている。参加者は親子連れもいるが、予想以上に一般の方、特に高齢者が多い。昔から馴染んでいる日本の昔話が多いので、親しまれているのではと考えている。

委員：図書館の事業は、ボランティアの方に支えられているのがよくわかる。ありがたいことである。

委員：美作国建国1300年記念事業の実施予定は。

事務局：4月5日に小学生以上を対象に、講演会「美作国の歴史を学ぼう」を弥生の里文化財センターの職員により行う。展示コーナーでは、郷土博物館と協力して「美作国歴史漫遊」を行う。その他の企画も計画中。

委員：湯郷bellの選手によるブックリストを作成したことだが、本の推薦やお話し会にサッカー選手を起用した趣旨は。

事務局：サッカー選手によるブックリストは、子どもたちに本とスポーツとの両方に興味を持ってもらえるよう作成した。選手による本の読み聞かせにはチームのファンも来館した。読書の幅が広がる効果も期待している。サッカー関係者も地域貢献したいとの思いが大変強く、全国各地の図書館で同様の取組みが実施されている。

委員:インターネットの環境が進み、子どもが本で調べることがなかなかできていない。漫画とゲームに本が押されている。保護者が子どもにもっと本を読むように言うべきであろう。

事務局:漫画にもいろいろ分野があり、歴史を学ぶものなどは資料として取り扱っている。家庭では、子どもと一緒に本を読んでほしい。図書館での行事やブックリストで提供できるのはあくまで“きっかけづくり”であり、行き着く先は家庭での読書活動の推進である。読書活動の推進には子どもより周囲の大人への働きかけが必要。図書館も環境整備を精一杯行いたい。

委員:子どもが小さな頃から本に親しむために取り組んでいることは。

事務局:乳児の3ヶ月健診時に、関係課やボランティアとブックスタートの説明を行っている。

委員:幼い子どもは本を読んでもらうのが好きである。そのまま成長して自分で読むことが続けば、子どもの語彙力が増し、想像力がつく。

委員:図書館には雑誌等も置いてあり、一度行けばおもしろさがわかる。

委員:自分の誕生日の頃の新聞も保存されているか。

事務局:昭和50年頃からの新聞を保存している。子どもの誕生日の頃の出来事を是非親子で調べに来館してほしい。

委員:図書館は静かにする場所であると思われるが、館内に広い空間を作り、地域コミュニティーの場とする新しい図書館の姿も聞かれる。

## (2) 視聴覚ライブラリー購入資料について

(前回の協議会で委員3名に購入資料選定委員を依頼し、今年度購入したDVD教材を紹介)

事務局:視聴覚ライブラリーは図書館とは別組織。図書館のビデオ、DVDは、著作権の処理方法の違いにより個人が楽しむためのもので、団体へは貸し出しやができない。これに対して、視聴覚ライブラリーで購入したものは、団体が貸出対象で、学校、子ども会、老人会、その他地域の集まりで上映できる。

予算の関係で購入数は減少しているが、各種団体が利用しやすいものとした。機材(DVDデッキ、プロジェクター)も貸出しているので、各地域で是非ご活用いただきたい。過去購入した教材のリストは、図書館のホームページで見られる。

## (3) その他

津山市立図書館振興計画の策定に向けて

事務局：文部科学省が12月に「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」を告示し、「市町村立図書館はその設置の目的を踏まえ、社会の変化や地域の実情に応じ、当該図書館の事業の実施等に関する基本的運営方針を策定し、公表するように努めるものとする。」が今回追加された。津山市立図書館は現在一つの課となり、方針を策定していく必要があると思うがどうか。

委員：現在の図書館は非常に良い方向性で運営されており、行政が経営する図書館であえて方針を定めなくてもよいのでは。逆に、津山市が文化や歴史、伝統を重んじる都市ならば、聖域なき行政改革をやるうとも、将来を担う子どもたちを育てる図書館の運営予算はしっかり措置してほしい。

委員：基本的運営方針を策定しておけば、指針となるであろう。例えば新刊本の30%は購入する等の具体的な数値を盛り込めば、達成に必要な予算額を要求できるのでは。他館の状況も参考に、市立図書館としての指針を策定したらどうか。

事務局：運営方針を策定して望ましい公立図書館の姿を謳い、予算要求にも反映させたい。

学校図書館と市立図書館との連携は非常に必要性を感じている。国の緊急雇用創出事業の追加募集で、事業内容が図書館と合致し、要求可能なものがあれば対応していきたい。

事務局：行政内部での調整も図りながら、骨子等を順次作り、当協議会にも諮りたい。

## 6. 閉会挨拶

竹内副委員長(略)

## 7. 閉会

事務局(略)